

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 6 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470206115		
法人名	株式会社ヤシロ		
事業所名	グループホーム ふじの里		
所在地	広島市佐伯区藤の木2-27-5 (電話) 082-927-3052		
自己評価作成日	令和5年5月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470206115-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470206115-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年6月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

高齢化が進み、医療機関以外での看取りを希望されるご家族も増え、当施設でもそのニーズに応えるため、最期を穏やかに看取りが実施できるように取り組んでいる。また、看護師、准看護師を配置し、最適なケアが出来るように実施している。介護現場では、ICTを活用し、介護職員の仕事の効率化や負担軽減により、利用者にかかる時間を増やすことが可能になっている。また利用者の異常をいち早く気付くことができ、全職員が活用している。コロナ禍もあり、ご家族と利用者の触れ合いが少なくなっているため、通信アプリLINEを使い、写真、動画などを定期的に送信し、施設での様子を伝えている。また、従業員は、藤の木団地に在住している方も多く、不測の事態や緊急時の対応に迅速に対応でき、サービス低下を防いでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

介護ソフトを6年前に導入し、利用者の体調・食事・排泄・睡眠などの生活状況をタイムリーに職員間で共有している。全職員がICTを使いこなし、業務の効率化により、利用者とのゆったりと接する時間が増えた事や、利用者の状態の変化や異常を瞬時に気付き、早急に医療に繋げる事が可能となっている。看護師は医師と連携し、医療情報を適切にケアに繋げるよう、指示を介護者に伝えている。それらの円滑な医療連携は、看取り時にも活かされ、管理者を中心に穏やかな看取りの支援に取り組んでいる。事業所は16年前に開設されて以来、地域住民との良好な関係性を継続させ、信頼関係や有事の際の協力体制を構築している。近くの公民館に利用者と共に訪問し、行事や催しに参加する事を楽しみとしており、チームで利用者の生きがい支援にも取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎週月曜日に、経営理念の唱和を行い、職員との共有を図っている。	開設当時から事業所基本理念を掲げ、朝礼や申し送り時に唱和を継続しており、全職員で共有し理念の浸透を図っている。管理者は、判断時や総括的に意見をまとめる時に、立ち戻るべき処として「利用者が生きがいを持って生活できるように」を認識し、職員と共に理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年同様にコロナ禍のため、地域の行事などには参加していない。地域からは、公民館などでの催しの案内は頂いている。	コロナ禍にて行事を通じた地域交流は出来なかったが、散歩・草取り・庭掃除の時、近隣住民と挨拶を交わしている。回覧板や近隣在住の職員から地域情報を得たり、特殊詐欺の注意喚起のために民生委員が来所する事もあった。時には、地域住民からの認知症相談に応じる事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	民生委員や女性会の方々の協力のもと、離設され行方不明になった場合などの協力を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、運営推進会議での外部への招集は行っていない。	通常は、利用者・家族・民生委員・女性会・地域包括支援センター、時には消防署員など、多方面から出席があったが、コロナ禍にて現在は書面会議となっている。時勢に合わせた面会基準や月1～2回の施設内イベントの様子や事故報告など、事業所の取り組みを議事録にて伝えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	密までとは言わないが、不明な点などあれば、即、広島市介護保険課、各自治体の窓口で連絡を入れ、施設サービスを維持できるように心がけている。	介護保険法の改定時などには、積極的に質問や連絡を行い、事業所運営に活かしている。利用者が福祉の制度を円滑に活用できるよう関係部門とも連携をとっており、また地域包括支援センターからの利用相談などにも応じ、事業所は市町との協力関係に努めている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会の設置により、研修等の実施を行っている。また、やむを得ない場合の拘束が発生する時には、家族への説明と理解を得るようにしている。玄関の施錠に関しては、道路に面しているため、施錠をしている。	全職員が参加する年3回の研修と3か月毎に身体拘束防止委員会を行い、身体拘束について認識を深めている。不適切な対応に繋がりそうな時は、職員同士が注意し合い、適切なケアについて話し合っている。管理者は、個別指導と同時に、拘束をしない組織風土の必要性を伝えている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会で定期的に虐待、拘束についての話し合いをし、特にグレーゾーンに関しては、共有できるように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用している利用者もいるため、制度の在り方、特性を学ぶことができ、職員とともに理解を深めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の前には、ご家族に施設見学、重要事項の説明を行った上で、契約を行っているため、不安や疑問などは、その都度、説明をし、納得いくまで伝えている。改定などがあれば手紙や電話などの手段を使い、説明している。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの要望、意見、提案があれば、その都度対応している。現在は、外部への意見を反映することはできていない。	家族に、利用者の様子を電話で伝えたり、通信アプリ(ライン)で画像や動画を送り、気持ちを共有しながら意見を聴き、実現に向け職員間で検討している。利用者が希望するお菓子を共に買い物に行くなど、気持ちに寄り添いながら実現可能な範囲でサービスに反映させるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なミーティングや申し送りなどにより、運営についての意見や提案をもらい、フィードバックできるような環境を整えている。また、案件によっては迅速に回答している。	職員は、毎日の申し送り時に意見を出し合い、センサーマットの適応やシャワーチェアの件などタイムリーに検討している。シフトによるケア内容の調整で利用者の安眠に繋げた例がある。管理者は、面談等を通じて職員の心身のストレス環境にも配慮し、職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	保有資格や勤務年数、能力などを見据えて、人事評価の基準にしている。また、資格取得のためのシフトの調整や研修参加のための時間調整を実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍のため、オンラインにて外部の研修を実施したり、研修の案内があれば、掲示板に貼りだし促している。特に無資格者に関しては、積極的に参加してもらうよう実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホームネットワークなどを通じて定期的に交流を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前や契約時に、ご家族からどのように生活してきたか、また好きなこと、趣味、趣向などの聞き取りを行っている。ご本人からは、入居当日に、聞き取りをしながら安心して生活ができるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会に来られた時など、日頃の様子や要望などをご家族から聞き取りを行っている。施設、ご家族の両方の信頼を得られるよう、特変あればすぐに連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約時、重要事項の説明をする際に、ご家族から聞き取り、必要な支援ができるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者ができる事を判断し、洗濯干し、掃除、調理の盛り付けなど手伝っていただいている。自分でできることは、可能な限りやってもらい、生活感を出せるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族からの要望があれば、迅速に対応し、全職員で共有している。面会も徐々に再開しつつ、家族との関係を維持している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出がほとんど出来ていなく、現在は馴染みの場所へ出かけることはできていない。	コロナ禍にて、面会制限がある中、調理を手伝う様子を家族に動画で送ったり、家族や馴染みの人との電話や手紙の支援を行っている。ドライブで、馴染みの桜名所や自宅付近・以前、利用していたスーパーを車から眺め「懐かしむ」機会の工夫に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	基本的には、日中の時間帯はリビングで過ごしていただき、談話を楽しんでもらっている。一人の時間も大切に、本人のペースを優先している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了した場合は、退去もしくは死亡の場合が多く、相談等あれば対応するように心がけている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中から、本人の意向を聞き取りながら、快適な生活が送れるよう努めている。誕生日会などは、その利用者が食べたいもの、飲みたいものを提供している。また、一緒に調理できる方には、職員と共に作っている。	一人ひとりの思いは、日常会話の中から察しながら把握し、介護ソフトに入力し共有している。テレビを見ながら関心があった内容、希望の外出先、食べ物等の把握に努めている。聴力に支障がある場合は、筆談アプリを用い、診察時に自らの意向を表出できるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、ご家族より情報を聞き、趣味趣向に合った環境を整え、これまでの生活から違和感のないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方は、利用者によって異なるため、その方に合ったリズムで過ごしてもらっている。体調不良などがあれば、無理をせず担当医に相談しながら努めている。基本、できることはやってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b>  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様、ご家族の要望を聞き取り、担当者で話し合い、プランを作成し、会議を実施している。また、介護度や状態が変われば、その都度、計画を見直している。	本人・家族や関係者からの情報にてアセスメント後、本人・家族・職員で話し合い、介護計画書を作成している。更に詳しく個別の具体的なケア項目を別紙にまとめ、職員は毎日、実施チェックをしている。計画作成者は定期的にモニタリングを行い、現状に即した計画作成に努めている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b>  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は、タブレットに残し、職員間で情報、状態を把握している。また、特変があれば、申し送りにて反映できるようになっている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b>  本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状態の変化が起こった時には、その都度、見直しを図り、新しい支援が必要な場合には、柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b>  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近くにある広域公園までは、天気、気候のいい時に外出しているが、頻度は少ない。コロナ禍もあり、外出機会は減っている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b>  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回の往診時、また特変があった場合には、担当医と連絡を取り、受診が必要な場合は、紹介状を書いていたいただき受診している。その後の経過は、随時、ご家族、担当医に報告をしている。	事業所と連携している複数の医療機関の中から、本人家族がかかりつけ医を選んでいる。日頃の気付きを職員が記載しているシートをもとに、看護職員が訪問診療時に同行しながら医師に報告し、医師からの指示は書面にてケアに繋げ、適切な医療とケアが受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b>  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員には、介護職員にはできない処置や薬の管理、往診時の対応など、適切に対処している。情報は常にタブレットに共有されていて、職員が把握できるようにしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b>  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された病院からは、常に情報が入り、症状もしくは退院の目安などの連絡は入っている。医療機関とは、担当医からの紹介で、スムーズに迅速に対応できるように実施している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した指針を説明し理解してもらっている。また、看取りも実施していることや指針も同時に説明してもらっている。施設内でできることを説明し、万が一の場合も連携医療機関への搬送などの説明もしている。	重度化した場合や終末期には、本人家族・医療関係者・職員と話し合い、支援の方向を決めている。看取りの際には、家族を含めたチーム全体で看取る事の大切さを確認し合い、穏やかな看取り支援に取り組んでいる。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b>  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、特に夜間の場合など、マニュアルを作成し、職員に徹底している。初期対応は、看護職員から指導を受け、適切に処置ができるようにしている。		
35	13	<b>○災害対策</b>  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な消防訓練により、避難誘導のやり方を指導してもらっている。参加する職員も、特に新しく入社した職員を中心に参加をしてもらっている。	避難訓練はコロナ禍にて先延ばしとなったが、災害対策マニュアルを周知し、次回は非常持ち出し表の活用や夜間を想定した訓練も予定している。毎回、利用者も参加し、避難経路や消火手順など消防署から助言を得ており、ソーラーによる蓄電や食料・排泄用具等の備えがある。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者は、職員より人生経験豊富な方ばかりで、人格を尊重しながら、声掛けの実践を行っている。また、言葉による虐待、拘束が起こらないように、職員間で注意を払っている。また、プライバシーには配慮し、居室への入室、トイレ、浴室への声かけ時、ノックは必ず実施している。	人生の先輩として尊重し、特に声かけについては、口調が荒くなっていないか等、互いに注意し合い、タイミングやその大切さ等を話し合っている。申し送りや職員間の会話時、利用者が特定出来ないような配慮や、場所を移動して、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中で、本人の希望や要望を聞き取り、実現できるように話を聞く場面を設けている。また、ご家族へもその要望を伝え、できることは協力を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員都合になる場合もあるが、できるだけ利用者優先で物事を進めている。その時の状況をしっかりと把握し、希望に添える支援を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節が変われば、衣替えを実施し、調整を行っている。定期的に散髪をし、清潔感を失わないようにしている。爪切りも看護職員が実施し、衛生を保っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	1か月に2回、施設内でイベントをする時に、調理の準備を手伝って頂いている。野菜の皮むき、簡単な作業、盛り付けなどを一緒に行っている。また、その様子を写真に残し、家族へ送付、送信したり実施している。	毎回、炊飯と汁物は職員が作り、副食は配食サービスを利用している。職員は個々の嚥下状態に合わせ、その都度、刻みやトロミ等で調整している。月2回は要望の献立を共に調理し、時には畑の胡瓜や大根、ネギを用いたり、ケーキの飾りつけを楽しむ等「食」の支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>各利用者の食事量が違うため、各職員で情報を共有している。また、糖尿病、腎臓に疾病がある利用者には、食事制限あるため、提供する食事には最新の注意を払っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの実施、義歯装着の利用者は、夜間には、入れ歯洗浄剤にてケアを行っている。歯科医の往診時には、適切なケアのやり方を指導してもらい、利用者にあったケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりに合わせたトイレ排泄のパターンを把握し、排泄管理表にて時間に応じて声掛けをトイレ誘導を実践している。</p>	<p>トイレでの排泄を基本とし、排泄管理表を見ながら、声かけのタイミングを大切にしている。多種類のパットの有効な使い方について話し合う事もある。分かり易いトイレ表示にする等、「失敗させない」「安全な立ち上がり」の支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分量、運動量、食べ物などでの、排便コントロールを理解し、管理表にて摂取量を把握し、調整している。また、長期間の便秘には、服薬によって管理している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者本人の気持ちを尊重したり、体調を考えながら実践している。また、入浴の楽しみ方も伝えながら実施している。本人の拒否があれば、翌日に行うなど、無理強要はしないように実施している。</p>	<p>入浴の時間は、定めているが、要望や体調により午前か午後を予定し、入浴回数や足浴など利用者の気持ちに合わせて柔軟に対応している。柚子や入浴剤の香り、歌、職員との会話などを楽しみ、処方された保湿剤や軟膏の塗布など個別の支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各利用者の生活リズムを優先し、そのペースに合わせている。出来るだけ良眠できるように、入室し臥床される時間を考え、過ごしてもらっている。前日の入眠時間を考えながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者が服用している薬は、ファイルにし全職員が共有できるようにしている。看護職員により、薬の特性、副作用などの説明を受け、看護申し送りにて共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各利用者の趣味、趣向を把握し、本人が楽しめる支援を心がけている。自分自身の洗濯物などは、できる限り自分で畳んでもらったり、自分の居室まで納めることまでの行為を実践している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍のため、外出はできていない。施設周辺の散歩や屋上まで行かれ気分転換を図っている。	コロナ禍にて外出の機会は減ったが、事業所周辺の散歩の継続や、社用車にて車の中から名所の桜を眺めたり、馴染みのスーパーや自宅の近くをドライブする等、出来る範囲で外出支援を行っている。法人社長が育てる敷地内の畑見学や草抜きを行う等、外気に触れる機会を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、利用者には現金は預けていない。何か必要なものがあれば、施設側で購入し、翌月請求している。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者から、家族へ電話をしたいと希望があれば、職員が電話をし、代わって話しをして頂いている。現在、手紙を書かれている利用者はいない状況である。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、廊下などに季節に応じた塗り絵やちぎり絵などは張り、季節感を出しながら楽しんでもらっている。また、各月の行事があれば、それに応じた空間を作るよう工夫している。	見え易い場所にカレンダー・日付・時計を掲げ、また炊飯や汁物調理の気配で会話のきっかけにする等、家庭的でくつろげる共有空間となっている。庭の紫陽花を活け、職員の手作りによる椅子カバーがあり、居心地よい環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になれる場所もあり、その人のペースに任せていき、安心できる場所を提供している、またリビングでは自由に過ごしてもらい、話し合いができる場も確保できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、思い出の写真やご家族の写真、手紙などを貼り、心地いい暮らしができるように配慮している。またご家族から提供されたものは、居室に配置したりして工夫している。	本人家族と相談しながら、部屋の配置を決めている。使い慣れた手作りの枕カバーや好みの造花の花籠を並べ、編み物が続けられる居室作りを支援している利用者もいる。コルクマットを敷き詰め、転倒時の外傷予防に取り組む等、状況に合わせた環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所など、大きく紙に書いて貼ったりし、危険物を置かないようにし、手すりなどを活用し、自力で歩行ができるように配慮している。		

V アウトカム項目( 1階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	経営理念については、毎週月曜日の朝礼、申し送り時に、順番に唱和している。ただ、実践に結びついているかは、認識としては弱いところもある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設周辺の草取り、掃除など実施していると地域の方より声をかけていただいたり、協力も得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	女性会、民生委員の方の協力により、徘徊されているやそのご家族に対して、一時的に施設で保護、又は相談を受けれるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	外部の方を招集しての運営推進会議は、実施できていなく、施設内での報告のみで留まっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市の健康福祉局からのメールや不明な点などがあれば、各介護保険課へ連絡し、担当者より指導を受けている。実績の報告までではないが、運営上の相談は、積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会の開催時に、虐待、拘束等の研修で、具体的な行為について議論をしている。玄関の施錠に関しては、道路に面している施設のため、安全面を考慮し施錠している。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束、虐待の研修にて、勉強会などで意見交換を実施し、いろんな場面での言動、行動が虐待になっていないか、検証している。判断が難しい場合は、意見交換により解決を図っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用している入居者の方がいるため、制度についてはある程度、理解はしているが、具体的な手続きはわかっていない。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項の説明などで、不安なことやご家族からの質問には回答している。また、電話等でも対応しているため、不安を解消するようにしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見は、その都度反映しているが、外部へ表せる機会はできていない。運営推進会議の開催を中止していたため、意見交換できていない。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からは、随時、申し送りに、業務連絡にて、意見、提案などあれば、その都度決定し、共有を図っている。直接、上長へ報告し、対応できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務時間数、有資格者、業務内容などを判断し、給与水準の引き上げを毎年、実施している。また、家庭環境も考慮し、勤務時間の融通を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	広島市からの案内や民間からの研修の案内を掲示板に張り出し、参加を促している。また、研修当日は、シフトの調整を行うことにより、研修に集中できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	佐伯区のグループホームネットワークで、できる限り参加をするようにしているが、回数は少ない。参加をした場合、意見交換などにより、課題を持ち帰り、職員に共有できるようにしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	契約前に、重要事項の説明で、ご家族から不安な点、疑問に思う点、などを納得いくまで聞くように努めている。また、入居前の様子、暮らしぶりなどを聞き取り、できる限り環境の変化に対応できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>契約前の段階で、ご家族から不安に思っていること、要望などは聞き取りを行い、本人様が安心して生活できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービスを開始する前に、ご本人様と家族が、どのサービスが最適であるか判断し、実践につなげるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>介護をしているという認識ではなく、できないことを手伝う、フォローするという観点から、あらゆることを介護するのではなく、一緒に生活しているという感覚を持ってもらいながら、関係を維持している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の思いや本人様からのご家族への思いを聞き取り、できる限り直接面会が可能な状態にしていき、家族の一員であることを認識してもらっている。面会時間は20分程度と短いですが、絆は築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの人や場所などは、会えていないし、行くこともできていない。施設へ連絡が入ることもあるが、ご家族以外は、基本お断り続けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が一緒になれるリビングで、談話をしたり、好きな席に座ってもらい、自由に過ごしてもらっている。居室で一人の時間も大切にしているが、長時間になれば職員から声をかけさせてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去され、他施設へ移った場合などは、必要に応じて情報を提供している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の希望を聞き取り、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、生活レベルに合わせて検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の聞き取りを行い、今までの生活を維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の過ごし方は、各々違うため、体調に変化がない限り、自由に過ごしてもらっている。ただし、居室で長時間過ごされている方には、定期的な声掛けを実施し、孤独にならないようにしていく。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者個人からの意見やご家族からの要望、看護職員からの意見などを踏まえて、現状に即した介護ができるように話し合い、計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケア記録は、時系列でタブレットに入力し、重要な事柄については申し送り画面、日々の記録についてはケースに入力し、全職員が共有できるようにし、計画の見直しを図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>職員同士の情報交換を通じアイデアを出せるような職場雰囲気を出せるような努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍での環境で地域との交流、資源の利用は困難だったが、これからは近くの公民館のイベントなどの利用を考えている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診時や電話連絡をすることで、適切な医療を受けられるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の体調や認知症状等の気づきや情報をその都度、口頭もしくはメモにて伝えるようにしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関との情報提供を密に行い、相互理解に努めている。また、その情報をかかりつけ医にも伝えている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	かかりつけ医や相談員、ケアマネや職員とで、情報交換を行い、家族へ状態報告を行い、かかりつけ医と家族の面談を設け、意思統一を図っている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	災害時のマニュアルを作成し、どう行動するか、分かりやすく提示している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な消防訓練やマニュアルにより避難ができるように、職員には共有しているが、地域住民との協力体制は、十分に出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	各利用者の居室への出入りの際には、必ずご本人に了承を得て入り、また在室の場合は、ノックをして入室するようにしている。入浴、トイレなども同様に実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	施設内での生活の中で、やりたいことや買いたい物、行きたい場所など、通常の会話から導き出し、可能なことは実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者本人の行動や言動を優先し、職員都合にならないように、一人ひとりのペースを大事にして、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	特に女性の利用者の方は、こだわりのシャンプーや軟膏クリームを使用して頂いている。季節に応じて、利用者の好みの洋服や色などを選び、その日の気分を上げていけるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の食の好みや、各々違うため、施設内での誕生日会などは、好きなものを聞き、できる利用者は、一緒に料理を手伝ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事、水分の摂取量は、その都度、タブレットで管理されており、栄養状態もかかりつけ医との往診で、定期的な血液検査などで、指導いただいている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝、昼、夕食後は、口腔ケアを実施し、義歯の方は、夜間洗浄するようにしている。また、歯科往診時に歯科医師より、アドバイスをもらい実践できるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立可能な利用者に対しては、できる限りトイレ誘導し、日中はリハビリパンツを使用している。排泄管理表で各利用者のタイミングを把握している。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄管理表にて、利用者の状況を一目わかるようにし、食事、水分で困難な時は、看護師と協議しながら服薬を実施することもある。できるだけ自然排便を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は、体調などを考慮し、本人の意思も尊重しながら、実行している。また、時間は設定していなく、利用者の様子を見てから判断している。入浴の拒否があった場合は、翌日に実施することもある。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入眠のタイミングや帰宅される時間を判断しながら、声掛けをしている。昼夜逆転されないように、できるだけ昼の時間に活動してもらえるように、声かけを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の意味合いは、ある程度理解しているが、副作用については、看護職員から指導してもらっている。また、往診時には、ドクターより効能、効果は聞くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴は、各利用者で違うため、調理等でできることは手伝ってもらい、趣味や好きなことに時間を使ってもらおうよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出は、コロナ禍のため希望に添えていないが、今後は5類へ変更になり、感染対策をしながら、実施していこうと考えている。また、ご家族からも外出の希望もあるため、できる限り応えていきたいと考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は、利用者にお金を所持することはしていない。どうしても必要であれば、ご家族へ依頼している。もし必要なものがあれば、施設で立替、翌月請求している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者から、家族へ電話をしたいと要望があれば、職員がダイヤルを回し、本人と代わって話しをしてもらっている。手紙の準備も必要に応じて用紙をし、支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特に使用度の高いトイレは、各トイレに張り紙をし、迷わないようにしている。また、怪我をしないよう危険なものは排除し、快適に生活できるようにしている。廊下には、その季節ごとの行事を貼り出したり、感覚が鈍らないように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間は、リビングであり、テレビを観たり、趣味のことをされたり、自由に過ごしてもらっている。また、居室に戻り、自分の好きな時間を過ごしてもらっている。ただ、居室へ長時間過ごすようであれば、定期的に声掛けを実践している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の使い慣れたものを居室に置いたり、本人が居心地がいい環境にするため、配置や写真、家族からの手紙などを側に置き、安心して過ごしてもらおうようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者個人のできることは、それぞれ違ってくるため、可能なことは、自分自身でやってもらうよう促している。		

V アウトカム項目( 2階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふじの里

作成日 令和5年8月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	利用者のご家族を結ぶ方法、手段が少なく、コロナ禍でも緊密にできないか。	抗原検査の実施などにより、陰性であれば外出の機会を設ける。	利用者のご家族の抗原検査の実施。	1年
2	4	運営推進会議の活用が十分に発揮されていないこと。	少しずつ再開を図り、地域の方の意見を取り入れていく。	案内文を差し出し、現状の施設の様子を伝え、参加に向けて促す。	半年から1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。